

当(112C)
技術

① 日本国特許庁(JP)

① 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2) 昭56-22729

⑤ Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

②④公告 昭和56年(1981)5月28日

A 44 B 19/26

6537-3 B

(全4頁)

1

2

⑤ 隠しフアスナー用スライダー

審 判 昭54-4954

② 実 願 昭48-113719

② 出 願 昭48(1973)9月29日

公 開 昭50-57604

③ 昭50(1975)5月29日

⑦ 考 案 者 高松 郁雄

魚津市大字大海寺野村 3671 番地

⑦ 出 願 人 吉田工業株式会社

東京都千代田区神田和泉町 1 番地

⑦ 代 理 人 弁理士 池谷 貞雄

⑥ 引用文献

実 公 昭46-6575 (JP, Y1)

⑦ 実用新案登録請求の範囲

基板1の両側に側板2と上面板3とを一体に設け、上面板3を基板1よりも短く形成して、上面板3の後端縁3'を基板1の後端縁1'よりもエレメントEの噛合口9側に位置させ、上面板3の後端縁3'から噛合口9方向へ側板2を切欠いて上面板3と基板1との間に開口4を設けた隠しフアスナー用スライダー。

考案の詳細な説明

この考案は、隠しフアスナー用スライダーに関するもので、隠しフアスナーを被着物に取付けた際に、装着個所の状態如何にかかわらず、常に軽快にスライダーを摺動できるようにしたものである。

従来、基板の両側に側板と上面板とを一体に設け、上面板を基板より短く形成して、上面板の後端縁を基板の後端縁よりもエレメントとの噛合口側に位置させ、上面板の後端縁から基板に向つて側板を傾斜させた隠しフアスナー用スライダーが提案(実公昭46-6575号公報)されている。この考案において、後端縁とは噛合口9の反対側をいう。

しかしながら、このような従来のスライダーは、

エレメントを噛合させる方向にスライダーを移行した場合に、エレメントが摺動口の入口付近において、エレメントをその厚み方向から規制するための上面板が存在しないにもかかわらず、第7図に示す傾斜⑨した側板2が存在するために、テープに⑩で示す横方向の引張力が作用すると、第8図に示すように、エレメントは⑥部を基点として起立しようとするので、エレメントが摺動溝に入りづらく、したがって、スライダーの摺動抵抗を非常に大きくして、軽快な摺動が不可能であつた。

この考案は、上記の従来の隠しフアスナーのスライダーの欠点を解消するために考案したものである。

この考案を実施例の図面によつて説明すると、基板1の両側に側板2と上面板3とを一体に設け、上面板3を基板1よりも短く形成し、上面板3の後端縁3'を基板1の後端縁1'よりもエレメントの噛合口9側に位置するようにし、上面板3の後端縁3'から側板2を切欠いて上面板3と基板1との間に開口4を設けたものである。

この考案の隠しフアスナー用のスライダーは、前述の従来のスライダーにおける課題を解決したものであつて、上面板を基板よりも短く形成し、上面板の後端縁から噛合口方向に向つて側板を切欠いて、上面板と基板との間に開口を設けたために、第5図に示すように、エレメントを噛合せる方向へスライダーを移行した場合に、テープにPで示す横方向の張力が加えられた場合でもエレメントは、入口付近において上面板3の下面によつてエレメント列部をその厚み方向に規制されると共に、側板2を切欠いた開口4の存在によつてその個所の側板による摩擦抵抗もなく、常に無理なく誘導され、さらに、開口4を設けた上面板3の内側縁により左右のエレメントを噛合せる方向に軽快に誘導されるために、第8図に示す従来のスライダーのように、エレメントは⑥部を基点として起立することがなく、エレメントは摺動溝に容易

3

に導入される。すなわち、摺動溝に対するエレメント列部の誘い込みが良好であるから、スライダの摺動抵抗は極めて小で、常に軽快にフアスナーを開閉することができるものである。

なお、隠しフアスナーはエレメント E の取付縁部でテープ T が反転 T' しているものであるから、この反転したテープ T' を被着物 7 に装着する際には、第 7 図に示すように、被着物 7 の側端縁の折返片 7' に縫合される結果、取付部は少くとも、第 12 図に示すように、テープの折返部 T'、被着物 7、被着物の折返片 7' の三重の構成を免れ得ないものである。更にフアスナーを必要とする個所が、被着物の縫い合せ目に跨がつて取付けられる場合には、第 9 図、第 10 図および第 11 図に示すように、その個所は、さらに、被着物 7 の下端の折曲部 7''、被着物 7 の折返片 7' の下端の折曲部 7''' および下方の縫い合せ被着物 8 とその折返片 8' が加わるため、益々分厚くなるので、このような厚地部分をスライダが通過しようとする時は、又はフアスナーの取付個所が彎曲部であつたり、或はフアスナーを中心に第 11 図、第 13 図矢印 P で示す左右横引方向に張力がかつた場合などには、厚地部の折返した側縁(第 11 図、第 13 図の T', 7', 7'', 8') は、矢印 Q で示したようにエレメントの噛合列を挟んで内側へ向つて立ち上るので、第 1、2 図に示したこの考案の実施例で示すように、スライダの基部 1 の肩部 5 の幅を、ダイヤモンドの 6 の幅

4

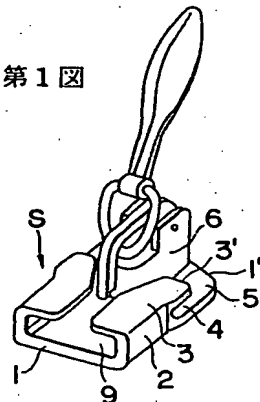
と、ダイヤモンド 6 を挟む両側の各エレメント列 E の幅とをそれぞれ加えた寸法にほぼ等しい幅とすれば、第 13 図に示すような従来のスライダの基板の肩部 5' のように、その幅が広く左右に突出しているために、折返した側縁 T', 7', 7'', 8' が肩部 5' と接触して大きな摩擦抵抗を受けることがないために、常にスライダは軽快に摺動することができるものである。

図面の簡単な説明

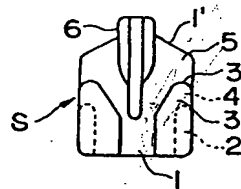
第 1 図は、本考案の隠しフアスナー用スライダの斜視図、第 2 図は他の実施例を示すスライダの平面図、第 3 図は、一部を横断した平面図、第 4 図は一部を横断した拡大平面図、第 5 図は第 4 図 C-C 線断面図、第 6 図は従来のスライダの一部横断面図、第 7 図はその側面図、第 8 図は第 6 図 a-a 線断面で、そのイ、ロ図は横方向の張力が作用した場合の説明図、第 9 図は被着物の縫い合せ部の拡大斜面図、第 10 図は、その裏面図、第 11 図は第 10 図 A-A 線断面で、被着物が矢印 P 方向の張力が作用した場合の説明図、第 12 図は第 10 図 B-B 線断面図、第 13 図は従来のスライダの説明図である。

図面中の符号 1……スライダの基板、1'……基板の後端縁、2……側板、3……上面板、3'……上面板の後端縁、4……開口、9……エレメントの噛合口。

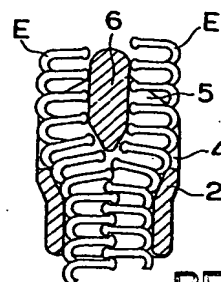
第 1 図



第 2 図

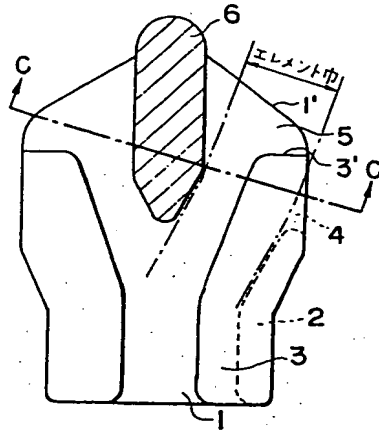


第 3 図

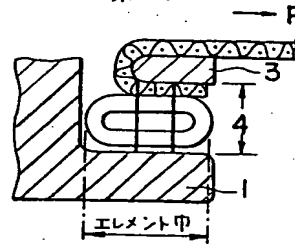


BEST AVAILABLE COPY

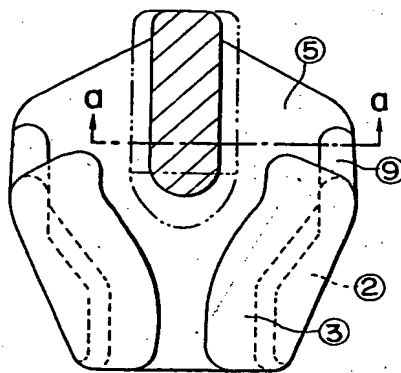
第4図



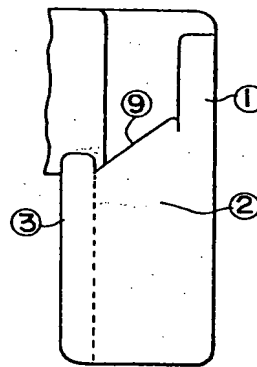
第5図



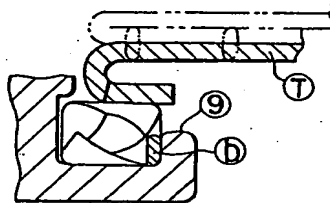
第6図



第7図

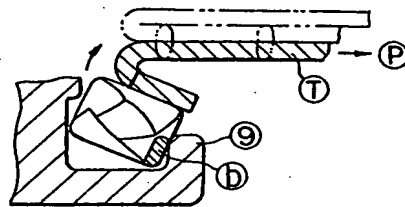


(イ)



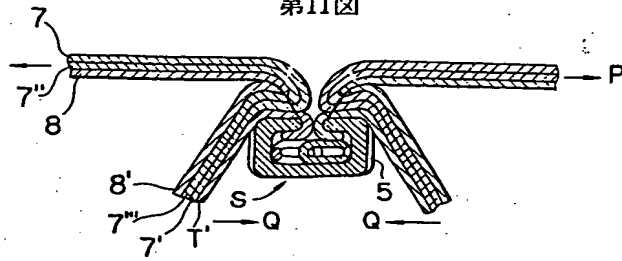
第8図

(ロ)

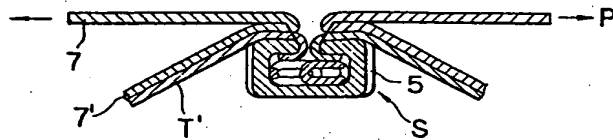


BEST AVAILABLE COPY

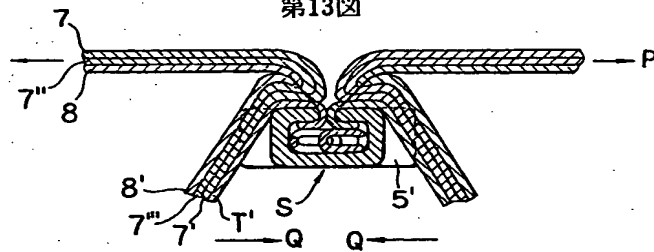
第11図



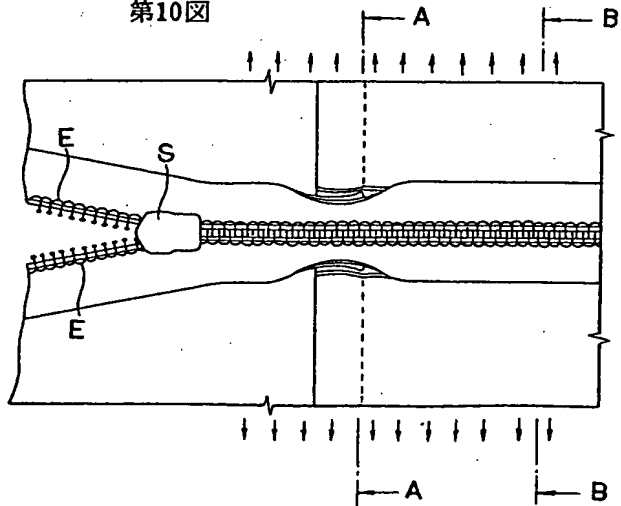
第12図



第13図



第10図



第9図

